

東北支部通信 第17号

< 発行 >

公益社団法人
全日本鍼灸学会 東北支部
2022.6.13

令和4年度 認定指定 盛岡 A 講座 (ハイブリット) 開催される

<< 講座のスクープ >>

梅雨入りしたかのような日が続いてましたが、6月12日の盛岡の空は明るく、さわやかに迎えてくれました。感染症収束の兆しが見え隠れしている中、令和4年度はじめての講座に、リモートでのご参加の方々、盛岡会場のアイーナいわて県民情報交流センターにおこしいただいた参加者の方々に厚く御礼申し上げます。

2年後には、全日本鍼灸学会学術大会宮城大会が開催されます。皆様の期待にお応えするべく、今年度も取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今回の盛岡講座では、高齢化が社会問題となっていることに着目し、特別講演1では、脳研究の第一人者で「生涯健康脳」の著者でもいらっしゃる東北大学 加齢医学研究所教授 瀧靖之先生をお招きして、最新の脳科学の知見をもとに、認知症をいかに抑え、スマートに年齢を重ねていくかお話いただきました。

また特別講演2・3では、学校法人衛生学園中医学教育臨床支援センター長兵頭明先生より、東洋医学からみた認知症の病態の解説、そして鍼灸施術でどのように取り組むか、ご講義と実技披露をしていただきました。



東北大学加齢医学研究所
教授 瀧靖之 先生



座長の庄子昌利 先生

特別講演1では東北大学加齢医学研究所教授瀧靖之先生より「生涯健康脳」として、脳の体積をいかに保つか、そのポイントを詳しくお話いただきました。特に飲酒・喫煙・内臓型肥満がもたらす動脈硬化により脳血流量が減少し、どれほど脳の萎縮をもたらすか、脳の画像データをもとに解説していただきました。不治の病といえる老化ですが、その老化をいかに緩やかに迎えるか、その対策として運動習慣や、品目とバランスを考慮した食事、夜にしっかり睡眠をとるといったことは、数年後の自分のために心がけたいことと思いました。孤立は認知症リスクを高めるので、社会との関わりを保つためにも会話を心がけること、そして高齢になっても可塑性が保たれるので、趣味や好奇心を持ちましょう「何かを始めるのに遅ぎることはない」、そして「生涯現役で過ごしましょう」という内容は、幸福な老後の生き方にもつながることだと思いました。



兵頭明先生の三焦鍼法の実技披露



学校法人 衛生学園
中医学教育臨床支援センター
センター長 兵頭明 先生



座長の設楽雄介 先生

特別講演2「認知症と鍼灸」・3「認知症の鍼灸治療」では、学校法人 衛生学園・中医学教育臨床支援センターのセンター長兵頭明先生より、ご講演と実技披露をしていただきました。鍼灸による認知症対策の実施意義と可能性として、実際の症例をもとに中核症状の改善について、特に軽度認知障害では、三焦鍼法施術により改善、また悪くならないで維持することができるというご報告に、東洋医学による取り組みの可能性をさし示していただきました。東洋医学の特徴としての標本同治の考えは、認知症治療によく対応できる点も興味深いものでした。

後半の三焦鍼法の実演では、認知症の方に施術する際声掛けの仕方など注意点や心配りも交えながら、鍼施術の手技も詳細にご披露いただきました。一朝一夕にできる手技ではありませんが、兵頭先生のポイントを参考に、練習し、是非身につけたい技術だと思いました。

今回、盛岡で初めてのハイブリッド講習会で途中不慣れな点があり送信が一時中断しましたが、大きな問題がなく無事に終了しました。今後の改善点として対応していきたいと思います。